

資源評価の方法と新たな手法導入の 取り組みについて

資源評価の方法 について

資源量が**推定されていない**

→ CPUE(平均的に1操業で獲れた量)
を資源量の指数として活用

資源量が**推定されている**

→ 年齢ごとの資源尾数や親の魚が産む子の数などを
もとに資源の将来を予測

CPUEを活用して資源量を推定できる場合もある

MSY(持続的に獲れる量の最大値)を推定できる

令和3年度まで

令和3年度までの資源評価方法は
かなり限定されたものでした

2系

資源量指数

2系漁獲管理規則
 $ABC = \alpha \times \text{過去漁獲量}$

1系

VPA

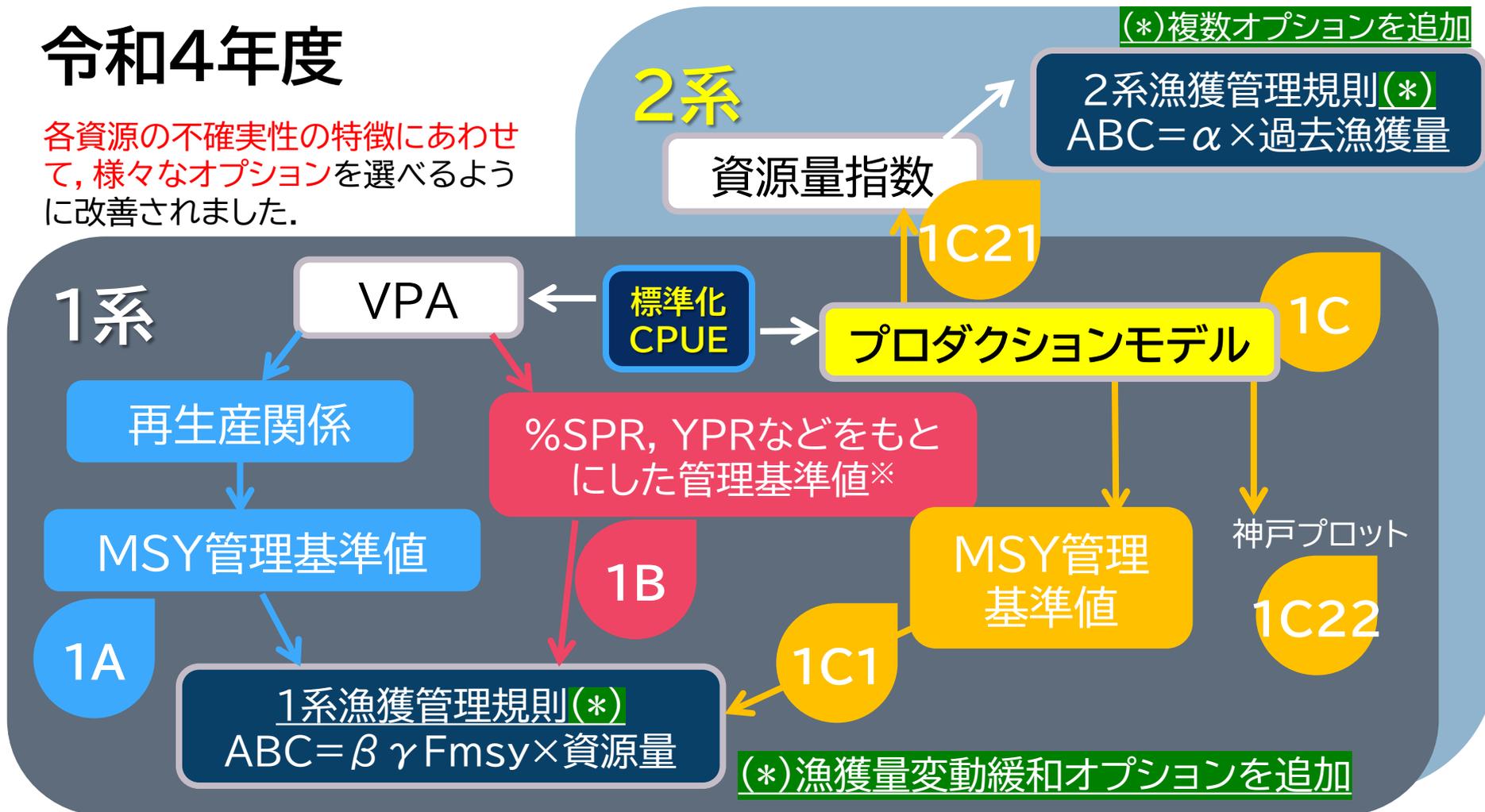
再生産関係

MSY管理基準値

1系漁獲管理規則
 $ABC = \beta \gamma F_{msy} \times \text{資源量}$

令和4年度

各資源の不確実性の特徴にあわせて、様々なオプションを選べるように改善されました。



※ 一定量の加入(獲られるサイズになった魚の数)のもとで、

- ・ %SPR : 漁業を行わない(獲らない)場合の親魚量に対し、〇%の親魚量が生き残る獲り方
- ・ YPR : 漁獲量が(例えば)最大になる獲り方となるような管理基準値のこと